

# ひかり

一般社団法人

光陽福祉会

発行日 平成 27年3月 第56号

## 想像力を働かせる

古田 真理華

笠松事業所の朝礼に会長が参加して下さる時があります。朝礼で訓示をされます。それは貴重な時間。その訓示の中には「いい言葉頂きます」と思う時と、「それは・・・」と思う中で、「そんな見方もあるんだ」と意表を突かれる事も…。けれど、毎回の朝礼で聞かせて頂く訓示を心待ちにしています。

今回の朝礼では「想像力を働かせて下さい」という言葉でした。ここ最近インフルエンザが猛威を振り、各学校では学級閉鎖が相次いでいます。体調を崩されて家庭で過ごされるお子様も少なくない状況。

事業所には「インフルエンザにかかり学校を休んでいます。利用もキャンセルします」という連絡を頂く事があります。その時に、「お子様の体調が悪い状況。その子が家庭で過ごす時間。保護者の御苦勞を想像して下さい。」そして保護者の心勞を勞う事ができる職員になって欲しい。そういう心構えを持つようにという内容でした。

確かに言われる通りです。心で想像できた事でも言葉にすることができないことも。事務的な連絡で済ませている事も少なくない状況。子どもさんが病気になる事で日常生活が大きく変わる。その変化によって親が抱く感情(不安・心配)を想像し、思いを寄せる事の大切さを伝えて頂きました。

「人の気持ちを思いやる(想像)」

人が自分に何かをしてくれた時、相手が自分のことを思ってしてくれたことを想うと幸せな気持ちになります。ちょっと疲れた時、ちょっと辛い時、不安な時に人からもらう言葉に救われる事って確かにあるのです。

「感謝する(想像)」その幸せとの出会い、その幸せの存在を「ありがたいなあ」と感謝することで、さらに幸せは膨らませることができます。「人は人によって生かされる」言葉の意味が大きくなってしましますが、保護者と職員との関係だけではなく、子どもさんの成長を願う人として関係を深める事ができたら素敵だな…とここまで想像力を働かせてみました。

想像力を働かせる事で幸せな気分になることができました。皆様も是非想像力を働かせてみて下さい。

# きっずサポートはぐくみ

## 視点・観点 (子どもの姿から見えてくるもの)

大島 由美子

子どもと過ごしていると、時々その豊かな発想、世界観に感心させられる事があります。

例えば・・・

(遊びの中から)

①自由な遊び方(1)

この玩具はこれとセット！こうやって遊ぶもの・・・と

(子ども達の中では)決まっていません。

目の前にあるもので想像力をはたらかせて組み合わせ

自己流の遊びを楽しみます。そこから様々な展開が繰り広げられていきます。

②自由な遊び方(2)

大人はこんなのは無理だろう・・・と思うけれど可能性を信じて疑わない子ども達。とりあえずのチャレンジ精神です。

この場合(写真)もはや線路は空中です。でも(子ども達の中では)かまわないのです。「失敗は成功のもと」失敗したら作り直して完成目指して挑戦します。

ここでいう完成とは子ども達の中で納得するものができた時です。

シルバニアの  
うさちゃん達  
大活躍です



③おもちゃを探せ！！

時々行方不明になる玩具達。その日のうちに見つける事ができない時もあります。子ども達との陰での闘いでもある玩具探しです。

④おまけ

ごっこ遊び等の遊びの中からは日常的な生活の様子が垣間見えます。

まきがっこ!!  
の連続(\*\_\* )



おやつ  
タイム

この隙間が  
お気に入り



(絵の中から)

一般的によく描く表面的な形(輪郭)ばかりが鼻ではないんですね。

いろいろな受け取り方、表現の仕方がある・・・確かに鼻の穴も鼻！納得の描写です。

このように子ども達の遊び方、表現の仕方を目にとると、自分の見方・捉え方の偏りや狭さにふと気づかされます。

同じ物を見ても見方は人それぞれ

同じ物を手にしても使い方は人それぞれ

同じ事を伝えようとしても表現の仕方・方法が人それぞれ違うんだという事を子ども達から教えてもらっています。

子ども達と向き合うには先ずは知ることから～

どのように見てるのかな？感じているのかな？

生活の様々な場面からその子を知るヒントをもらい、個性を見つけ理解し、活かすことができるように、つとめていきたいと思えます。





# サポートセンターつぼみ



## 仲間とのかかわり

ホットケーキ作りの活動を終えて…

出口 妙子

たくさん作って「お家に持って帰る！お土産にする！」楽しんでホットケーキ作りに参加してくれた子ども達。同じ内容で活動し続けるうちに自信が生まれ、中には「お家でお父さん、お母さんにも作ってあげたい！」という目標が持てた子もいました。嬉しい姿ですね！次の内容に進んでいく為、1月でこの活動に区切りをつけ、一旦終えたいと思います。たくさんのご参加ありがとうございました。最終日には、これまでの経験を生かして、子ども達自身の力で調理を行いました。その中で見られた一つの場面を紹介したいと思います。

S君はエプロンを身に付け、自分の番が来たら「やるぞ」とはりきっていた。時々、ホワイトボードに書かれたレシピを見て、口に出して確認しながらも材料を分量通りにボウルの中に入れていた。そこへ、調理を終えたNちゃんとT君がやってきて、S君に声をかけた。「ねえ、S君？泡立て器はじゃまだからどかした方がよくない？」と。S君は「どうしよう？」と返事し、少し慌てた様子で周りを見回して空いているボウルを探して、そこへ泡立て器を持っていった。それからNちゃんとT君は、何かと心配な様子でS君に声をかけていた。

この時、S君は最後の材料のホットケーキミックスを入れて、混ぜるのみとなっていました。なので、泡だて器がボウルの中に入ったままでも差ほど大きな影響はなかったのです。しかし、何と無く2人に同じことを言われてしまうと、そうなのかなと意見に同調したのです。

このような出来事は、実は普段でもよく見られています。他の友達の言葉によって、分かっているも迷いが生じて結果的に誤った結論に行きあたったり、喧嘩になることも。S君のように自信がなくなったりと、これは良くないことではと疑問に思う方もいるのでは？私は、この様な「横の繋がり」つまり、友達との関わりこそが必要だと考えています。「縦のつながり」の関係、「教える・教わる」「指示する・指示される」ことから離れることが少ない子ども達。自分の考えで動く機会は実は少ないのではないのでしょうか。友達同士で遊びを組み立てる時、物事を相談し合う時、多分同じような年頃の立場に立っている関係だからこそ、相手の些細な言葉に反応したりといざこざに発展しやすい。しかし、様々なやり取りを通して、自らそれらを解決しようと方法を探し当てる所に上手な人との関わりを学べるチャンスがあるのです。仲間とのやり取りの中で、「自己主張・自己抑制」「思いやり」「ルール理解」「イメージの共有」「コミュニケーション能力」「役割の分担」「問題解決能力」が育っていく。社会性が育つのは難しいことですが、一日一日これからも子ども達の関わりを見守り、共に成長していきたいと思えます。





# 第2光陽

## 子どもたちのキラキラ笑顔

藤座 祐貴

2015年が始まり、2ヶ月が経ちました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

昨年4月より指導員をしております、藤座です。

私がつぼみの子どもたちに出会って早1年。子どもたちの「ふじぎせんせ〜！」という声を聞くたびに幸せな気持ちになります。子どもたちのキラキラと輝く笑顔のとりこになりました。

さて第2光陽では、2015年早々にインフルエンザが大流行しました。インフルエンザだけでなく風邪でお休みするお友達も増え心配しましたが・・・今では子どもたちの元気いっぱいの声とキラキラした笑顔で活気あふれる第2光陽です。

2月といえば節分ですね。第2光陽でも節分にちなみ、豆まきや太巻き作りに挑戦しました。また2月のカレンダー製作では、「鬼」をモチーフにしたカレンダーを作りました。はさみで鬼の形にチョコチョコキ・・・のりでペタペタ・・・とっても可愛らしい鬼のカレンダーが出来上がりました。さらに豆まきでは、なんと第2光陽に“鬼”が登場しました！「鬼は〜外！福は〜内！」元気いっぱいに豆まきをしました。これできっと2015年も幸多き1年になりますね。



最後に、3月になり、別れの季節となりました。第2光陽からも卒業生を送り出します。卒業生にはより一層、皆様に今年度も「つぼみ楽しかった」と思ってもらえるようなつぼみライフをお届けしたいと思っています。



# 第2サポートセンターつぼみ



## 焼きそば定食!

石野 恵

まだまだ寒い日が続いていますが、26年度も残り3月だけとなりました。体調を崩さず新年度をスタートしたいですね。

さて、第2サポートセンターつぼみでは1月より土曜日のデイがスタートしました。生活をしていく上で、衣食住は不可欠です。衣は療育の時間や日々時間をかけて声をかけていくことができます。食に関しては土曜日の時間を使い、1人でできる事を一つでも多く増やしてほしい。料理をすること、道具の使い方、片付けまでを学んでほしいと考えています。平日に行う調理実習は時間が短いため、一番身につけてほしいところの絞りを絞っています。しかし土曜日の活動は時間をかけて、食材が料理に代わっていく様子等確認しながら行うことができます。

徐々に土曜日の活動の流れをつかんできた子ども達の様子をお伝えしたいと思います。焼きそばの具材を切る人・ご飯・サラダを作る人、担当に分かれ準備をしていきます。

### ①必要な道具を準備

#### 焼きそば班

- ①お肉・キャベツ・玉ねぎを切る
- ②焼く準備をする

#### サラダ班

- ①キュウリ・トマトを切る
- ②盛り付けをする

#### ご飯班

- ①ご飯を研ぐ
- ②水を量る
- ③スイッチを入れる
- ④サラダ班へ



- ②それぞれの担当が終わったら、皆で焼きそばを焼く。
- ③焼き終わったら盛り付け。
- ④レトルトのおみそ汁を作り完成

食材の中で玉ねぎは切りにくく、玉ねぎが小さくなると「怖い」と言い出す子がおり、どうやって切ったら良いかを職員と考え、解決方法を探します。味はどうなのか、薄いのか辛いのか確認し、皆からのオーケーがでたところで盛り付けを行いました。「いただきます」をし、食べ始めます。自分で作ったご飯は、おいしいですね。自然に笑顔も出てきます。

